

**大学入学共通テストの導入に向けた  
試行調査（プレテスト）（平成 29 年 11 月実施分）の結果報告の概要**

- 昨年 11 月に実施した試行調査（プレテスト。以下単に試行調査という。）については、大学入試センターに設置された「新テスト実施企画委員会」において、試行調査実施前にあらかじめ分析・検討方針を専門的な見地からご審議いただき、この方針に従って実施過程や結果に関する分析・検討を行った。
- 「新テスト実施企画委員会」においてご了承いただいた分析・検討方針の具体的な項目と、それに沿った分析・検討結果の概要は次のとおり。

## **1. 各科目の問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析・検討**

### **【分析・検討方針】**

- 大学入試センターにおいて分析チームを構成し、次のような項目について試行調査の結果に基づくデータ解析を行い、科目別WGに提供する。
  - ① 設問ごとの正答率や誤答の選択状況
  - ② 設問ごとの五分位図
  - ③ 設問ごとの識別力（項目得点と総点とのピアソン相関）
  - ④ 正答数の分布
  - ⑤ 質問紙調査（試験時間、問題量、難易度、問題文の指示の仕方や図・資料等の提示の仕方、進路等に関する質問）を参考にした分析

### **【分析・検討結果の概要】**

#### **（1）設問ごとの正答率や誤答の選択状況**

- 作問に当たっては、大学入試センター試験に関する既存のデータでは蓄積されていないタイプの問題に関する解答傾向等のデータを集めることを重視し、探究の過程等の設定（授業において生徒が学習する場面の設定や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面の設定、資料やデータ等を基に考察する場面の設定など）を通じて、知識の理解の質を問う問題や思考力、判断力、表現力を発揮して解く問題を、各科目における全ての分野で重視したところ。得点の分布情報を利用した段階別表示など、素点以外の成績提供の在り方についても検証することを踏まえ、目標平均正答率は設定していない。

- 各設問の正答率は、「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査（プレテスト）（平成 29 年 11 月実施分） 設問別のねらい及び正答率（確定値）」のとおり。誤答の選択状況については、特定の誤答選択肢を選択した者の数が正答を選択した者の数を上回る設問数を各科目で分析。
- 「3. マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析・検討」において後述するように、素点表示が社会的に浸透している現状を踏まえつつ、得点の分布情報を利用した段階別表示を行うとしても当面は素点と併記することになると見込まれることから、平成 30 年度試行調査においては、今回の試行調査における正答率等の分析を踏まえつつ平均得点率（又は平均正答率）を設定する方向性。具体的には、大学入試センター試験の作問を踏まえつつ、新しいタイプの問題の出題が求められることから、科目ごとの総合的な平均得点率（又は平均正答率）5 割程度を目指すことを念頭に、難易度の高い問題から低い問題までをバランス良く出題できるよう作問していく。

## （2）設問ごとの五分位図

- 正答数により、大問の五分位図を見ると、国語、数学 I・数学 A、物理、生物は、Hi 群の正答率が 60%を超えていない大問が比較的多かった。平成 30 年度試行調査に向けて、特に上述の科目においては、提示する文章や資料の分量、問題のバランスなどを工夫し、正答率が中程度からやや高い問題を増やして、より多様な学力層を識別できるようにしていく方向性。

## （3）設問ごとの識別力（項目得点と総点とのピアソン相関）

- 設問ごとの正誤と正答数とのピアソン相関を基に、設問ごとに科目全体との相関を分析した。各科目では、これらの設問を中心にその要因等の分析を行った。

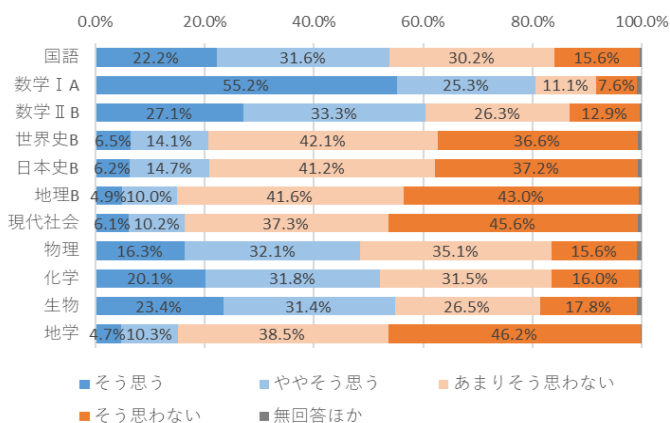
## （4）正答数の分布

- 正答数は、ほとんどの科目で中央～やや少ない方に分布している。また、各科目の設問正答率幹葉図を見ると、正答率が低い問題がやや多い傾向が見られる。平成 30 年度試行調査に向けて、正答率が中程度からやや高い問題を増やし、より多様な学力層を識別できるようにしていく方向性。

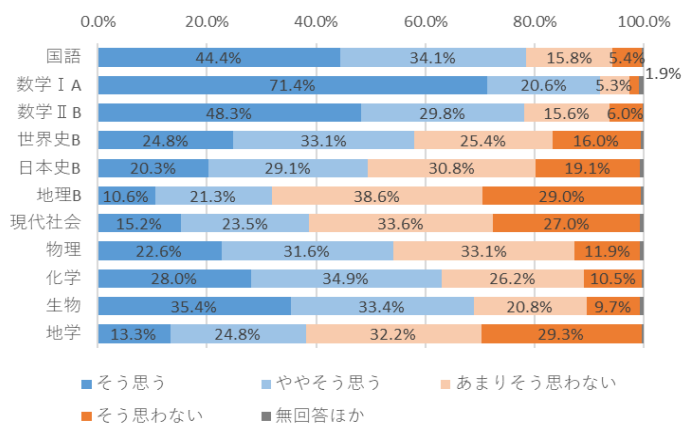
## （5）質問紙調査を参考にした分析

- 生徒のアンケートにおいて、試験時間が短かったという回答が 50%を超えたのは、国語、数学 I・数学 A、数学 II・数学 B、化学、生物であった。
- 同じく生徒のアンケートにおいて、問題の量（文章や資料等）が多かった、問題が難しかったという回答が全体的に多く見られる結果となった。

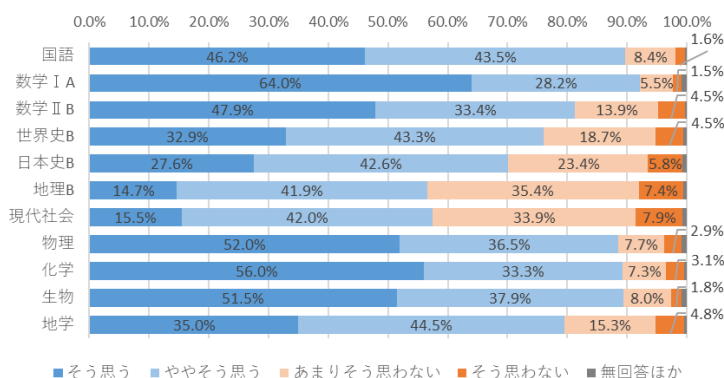
問題を解く上で、試験時間は短かったと思いますか。



問題の量（文章や資料等）は多かったと思いますか。



問題は難しかったと思いますか。



## 【分析・検討方針】

○ 科目別WGにおいては、提供されたデータを基に、例えば正答率が極端に低い問題の改善の在り方、正答率が総合的に高い受検者が誤答を選択している問題の分析、成績上位者の識別に寄与する問題と成績下位者の識別に寄与する問題のバランス、識別力が低い問題の分析、各設問において問いたい力と作問のねらいの妥当性等も含めて、大学入学共通テストの問題構成や設問数、内容、配点等の在り方に関する分析・検討を行い、平成30年11月に実施する試行調査に生かすこととする。

なお、科目別WGにおいては、作問者以外の外部有識者から問題構成、設問数、内容等の妥当性に関するヒアリングも併せて行う。

## 【分析・検討結果の概要】

○ 科目別WGにおいては、大学入学共通テストにおける問題の構成・内容を想定しながら、平成30年11月に実施予定の試行調査の問題構成・内容の検討を行っているところ。その際、前述の①～⑤に関するデータを大学入試センター試験の結果に関するデータと比較しながら、大学入学共通テストにおいて問いたい知識や思考力等を重視した作問の在り方と、選抜試験としてふさわしい難易度や識別力の設定とを両立させるよう検討を進めている。

なお、問題構成・内容と併せて、配点や選択問題の在り方も含めた検討を行っているところ。

- 作問者以外の外部有識者からのヒアリングについては、試行調査問題公表時に、各科目の有識者からいただいた問題に対するコメントを公表した。さらに、科目別WGにおいては、当該科目に造詣が深い大学の教員をそれぞれ5名程度、全科目で48名を選定し、①出題のねらい、②題材の選定や問題の場面設定、出題形式等、③各科目の問題構成や設問数、内容、難易度等について聞き取りを行った。

## 2. 記述式問題の正答の条件の設定、採点、成績表示等の在り方に関する分析・検討

### 【分析・検討方針】

#### (1) 正答の条件の設定

- 解答類型ごとの解答状況に関する分析データ等を基に、国語WG及び数学WGにおいて分析・検討を行う。特に国語については、正答の条件の数の在り方、形式面、内容面の条件のバランス、重み付けの在り方等について総合的に検討しマニュアル化を目指す。

### 【分析・検討結果の概要】

- 今回の記述式問題については、国語・数学ともに、解答に必要な場面や条件の設定としてどの程度までの複雑さが可能かを検証できるよう作問した。
- 国語について、解答類型ごとの傾向は次のとおり。

	解答類型		割合 (%)
問1	ア	条件①～④のすべてを満たしている解答	43.7%
	イ	条件②～④を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	2.2%
	ウ	条件①～③を満たしている解答 (④のみ満たしていない) 又は 条件①, ②, ④を満たしている解答 (③のみ満たしていない) 又は 条件①, ③, ④を満たしている解答 (②のみ満たしていない)	32.2%
	エ	条件①, ②を満たしている解答 (③, ④は満たしていない) 又は 条件①, ③を満たしている解答 (②, ④は満たしていない) 又は 条件①, ④を満たしている解答 (②, ③は満たしていない)	14.1%
	オ	上記以外の解答	5.4%
	カ	無解答	2.3%

	解答類型		割合 (%)
問2	ア	条件①～③のすべてを満たしている解答	73.5%
	イ	条件①, ③を満たしている解答 (②のみ満たしていない) 又は 条件②, ③を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	0.0%
	ウ	条件③を満たしている解答 (①, ②は満たしていない)	0.0%
	オ	上記以外の解答	23.4%
	カ	無解答	3.0%

	解答類型		割合 (%)
問3	ア	条件①～④のすべてを満たしている解答	0.7%
	イ	条件①, ③, ④を満たしている解答 (②のみ満たしていない) 又は 条件②, ③, ④を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	0.1%
	ウ	条件③, ④を満たしている解答 (①, ②は満たしていない)	0.0%
	エ	条件①～③を満たしている解答 (④のみ満たしていない) 又は 条件①, ②, ④を満たしている解答 (③のみ満たしていない)	11.1%
	オ	上記以外の解答	81.6%
	カ	無解答	6.6%

- 3問ともに無解答率は低く、3問の難易度についてはバランスも考える必要があるが、特に問3（80～120字）の正答率が低く、1割にも満たないことは識別力等の点から課題である。平成30年度試行調査に向け、3問の難易度のバランスに配慮しつつ、特に、文字数が最も多い問3については、言語活動の条件や場面の設定がより明瞭となるよう工夫することなどにより、3～4割程度の正答率を目指した作問を行っていく。
- 国語のマス目における句読点の扱いや段落等の扱い（一字下げや改行）については、更に分かりやすく問題文に明記するとともに、高校の国語教育等を通じて周知が図られるよう、高校教員等と連携していくことが求められる。
- 数学について、解答類型ごとの傾向は次のとおり。

		割合 (%)
問(あ)	正答	2.0%
	誤答	48.2%
	無解答	49.8%
問(い)	正答	4.7%
	誤答	38.3%
	無解答	57.0%
問(う)	正答	8.4%
	誤答	45.1%
	無解答	46.5%

- 3問ともに正答率が非常に低く、無解答率が高くなっていることから、今後、試験問題全体の難易度のバランスの中で、記述式問題の適切な難易度を十分に考慮した作問を行う必要がある。特に、数式ではない文章で解答させる場合の問いの工夫などについては更に検討していく。

### 【分析・検討方針】

#### (2) 自己採点の分析

- 自己採点の一致率に関する分析データ等を基に、国語WG及び数学WGにおいて作問や正答の条件の在り方に関する検討を行う。

### 【分析・検討結果の概要】

- 自己採点の一致率については、次のとおり。

国語問1	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	71.6%	27.3%	0.5%	0.6%
(採点不能と解答不明を除く)	72.4%	27.6%	-	-

		自己採点							
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	採点不能	解答不明
解答	ア	<b>34.8%</b>	0.2%	7.0%	1.5%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%
	イ	1.6%	<b>0.1%</b>	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ウ	5.2%	0.3%	<b>24.0%</b>	2.4%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%
	エ	0.8%	0.1%	3.9%	<b>8.7%</b>	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%
	オ	0.4%	0.0%	1.5%	1.0%	<b>2.1%</b>	0.1%	0.1%	0.1%
	カ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.8%</b>	0.1%	0.1%

国語問 2	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	77.4%	21.2%	0.8%	0.6%
(採点不能と解答不明を除く)	78.5%	21.5%	-	-

		自己採点						採点不能	解答不明
		ア	イ	ウ	オ	カ	力		
解答	ア	<b>59.2%</b>	10.3%	0.2%	3.7%	0.0%	0.3%	0.3%	
	イ	0.0%	<b>0.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	ウ	0.0%	0.0%	<b>0.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	オ	4.2%	2.2%	0.3%	<b>15.8%</b>	0.2%	0.3%	0.2%	
	カ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>2.4%</b>	0.1%	0.2%	

国語問 3	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	67.0%	30.5%	1.3%	1.1%
(採点不能と解答不明を除く)	68.7%	31.3%	-	-

		自己採点						採点不能	解答不明
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
解答	ア	<b>0.2%</b>	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	イ	0.0%	<b>0.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ウ	0.0%	0.0%	<b>0.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	エ	0.8%	0.3%	0.0%	<b>7.6%</b>	2.4%	0.0%	0.1%	0.1%
	オ	1.9%	1.4%	0.3%	21.3%	<b>53.5%</b>	1.4%	1.0%	0.8%
	カ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	<b>5.7%</b>	0.3%	0.2%

数学問 (あ)	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	82.9%	10.6%	4.8%	1.7%
(採点不能と解答不明を除く)	88.7%	11.3%	-	-

		自己採点				
		正答	誤答	無解答	採点不能	解答不明
解答	正答	<b>1.8%</b>	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
	誤答	7.8%	<b>33.5%</b>	1.3%	4.5%	1.2%
	無解答	0.0%	1.3%	47.6%	0.2%	0.5%

数学問 (い)	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	92.8%	4.0%	1.9%	1.3%
(採点不能と解答不明を除く)	95.9%	4.1%	-	-

		自己採点				
		正答	誤答	無解答	採点不能	解答不明
解答	正答	<b>4.3%</b>	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
	誤答	1.2%	<b>34.6%</b>	0.6%	1.5%	0.6%
	無解答	0.1%	2.0%	53.8%	0.3%	0.7%

数学問 (う)	一致	不一致	採点不能	解答不明
割合	86.6%	7.2%	4.5%	1.7%
(採点不能と解答不明を除く)	92.3%	7.7%	-	-

		自己採点				
		正答	誤答	無解答	採点不能	解答不明
解答	正答	<b>7.6%</b>	0.3%	0.0%	0.3%	0.1%
	誤答	4.7%	<b>34.6%</b>	0.9%	4.0%	1.1%
	無解答	0.0%	1.3%	44.3%	0.2%	0.5%

- 今回の記述式問題は、解答に必要な場面や条件の設定としてどの程度までの複雑さが可能かを検証できるよう作問したことにより、特に国語の問3や数学の問題については難易度が高くなり、解答や正答の条件等も受検生にとって複雑なものになったと考えられる。平成30年度試行調査に向けては、数学における数式ではない文章で解答させる場

合の問いの工夫など、2020年度からの記述式問題導入の際の円滑な実施のための在り方を検討しているところ。

- こうした作問や正答の条件の作り方の工夫により、正答の条件等は受検者にとってより捉えやすいものにすることができると考えられるが、全ての受検者の自己採点を実際の採点結果と完全に一致させることは困難であると言わざるを得ない。このことを踏まえ、大学における活用の在り方や、成績確認に対応するのかどうかなどを含めた検討が必要であると考えられる。

### 【分析・検討方針】

#### (3) 解答方法、答案の読み取り

- 文字の濃淡、マス目や枠内に収まらない解答等、解答方法のバリエーションについて分析を行い、解答に当たっての注意事項として今後記載すべき事項や読み取りイメージの階調・圧縮形式・解像度等をどのように設定すべきかについて検討を行う。  
文字の濃淡については、試行調査とは別に、鉛筆の濃度を変えたダミーの解答用紙を使った読み取りの検証なども行う。
- 答案の画像化・小片化や、採点システムへのデータ送信に係る課題等の検証も行い、今後の採点システムやネットワーク構築に向けた検討に生かす。

### 【分析・検討結果の概要】

- 読取りの画質について、消し残しの可能性や筆圧等を考慮した検証を行い、採用する形式のイメージが定まったところ。現在、効率的なデータ送信や、センターと採点業者との採点・検収に関するコミュニケーションの在り方を踏まえたシステム構築について検討中。

---

<sup>1</sup> センター試験では、大学入学者選抜が終了する4月中旬以降に、希望者に対してセンター試験の成績を送付している。また、解答の本人開示請求にも対応している。

## 【分析・検討方針】

### (4) 採点及び検収の体制及び期間

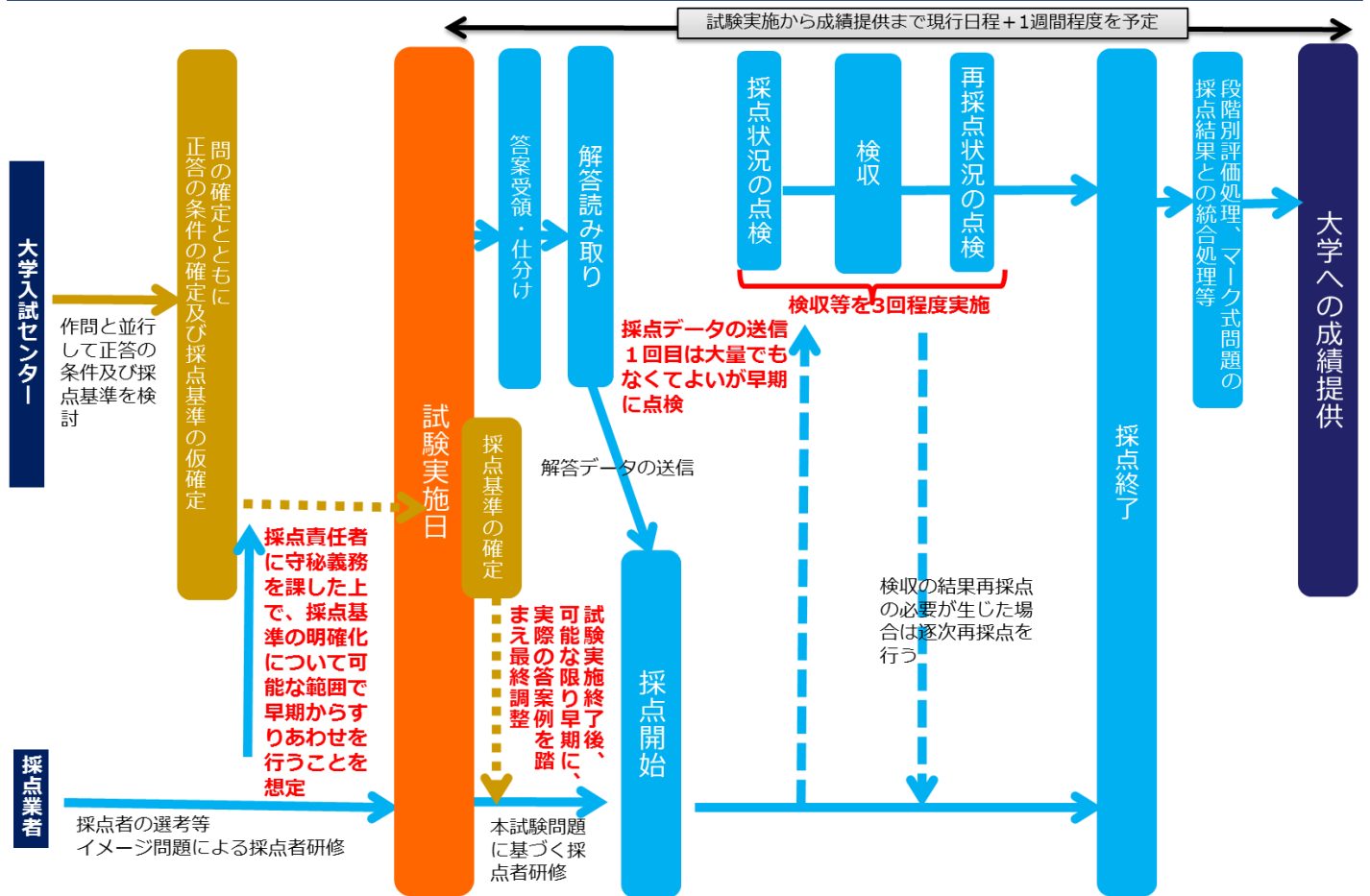
- 採点及び検収の体制に関しては、必要な採点者の確保や事前研修の在り方、実際の解答を踏まえた採点基準の確定方法、多層的な採点の運用方法、採点システムの在り方、必要な検収者の確保や事前研修の在り方等について検証を行い、今後の採点及び検収体制の構築に向けた検討に生かす。
- 採点及び検収の期間については、必要なプロセスに要する日数を洗い出しながら採点及び検収を実施し、限られた期間内で実施するために必要な体制やシステムの在り方を検証する。

## 【分析・検討結果の概要】

- 今回の試行調査では、採点を行う業者には15日以内での採点を依頼し、スケジュール内(10日)に採点終了。その後大学入試センターにおいて検収を実施(国語は4日、数学は3日)。その後の再採点に3日程度、再検収に1日。今回の採点・検収プロセスは、各プロセスにおける課題を検証しながら実施するため、工程を重ねることなく分割して実施している。実際には採点と検収の工程は同時並行となることから、全体に要する期間は短縮される。
- 受験者数は国語約6.5万人、数学約5.5万人。採点者数は約1,000人。検収は各科目10名程度で、問いによって4,000~9,000件程度実施。今回の検収においては、センター側が作成した採点基準を採点業者とすり合わせながら、採点基準に盛り込むべき事項の検証も行った。その過程で採点基準を明確化したことに伴い、問いによって0件~31件程度、再検収においては0~9件程度の補正を行った。
- 平成30年度試行調査に向けては、採点基準の作成自体を問題及び正答の条件の作成と同時並行で、センターと採点業者とで内容をすり合わせながら行うとともに、試験実施後速やかに具体の解答例(センターが作成した解答例と、試験実施後早期に回収した具体の解答例)の状況を確認し調整することとする。また、採点の初期の段階で状況の点検を行うこととする。
- 今回の試行調査を踏まえた、大学入学共通テストの採点に関する流れ(イメージ)は、次ページの図のとおりである。なお、大前提として、質の高い採点者の確保は、採点を行う業者を決める際に特に重視する必要がある。
- 採点・検収の仕組みについて、あらかじめ受検者等に分かりやすく示し、理解を得た上で出願してもらうことが重要である。



## 記述式問題の採点に関する流れ(イメージ)



### 【分析・検討方針】

#### (5) 国語の記述式問題の成績表示

- 実施方針を踏まえ、試行調査の結果を活用して、小問ごとの段階別表示（3段階表示～5段階表示）、小問に応じた重み付けの在り方、総合評価としての段階別表示（3段階～5段階）等についてシミュレーションを行い、大学及び高校関係者の意見を聴取しながら、国語WGにおいて論点の整理を行う。
- 併せて、記述式問題の段階別グループにおけるマーク式問題の得点の分布の分析等も行い、必要に応じ今後の作問等に反映する。

### 【分析・検討結果の概要】

- テスト関係の有識者、国語WG委員等で段階別評価の検討を行い、次のような意見をいただいているところ。
- ・ 記述式問題導入の当初は、小問ごとの段階はあまり細分化せず、なるべく少なくすることを考えたほうがよいが、「正答」、「正答の条件を一部満たす」、「誤答」の3段階のみでは、特定の段階に受検者が集まりすぎてしまうので、4段階程度がよいのではないかと。

- ・大学での活用のしやすさを考えれば、小問ごとの段階だけではなく、総合評価を段階で示した方がよいのではないかと。また、センターでは点数化はすべきではなく、仮に点数化するのであれば大学の判断によるものとした方がよいのではないかと。
- ・小問間の重み付けについては、問3は文字数や問いたい資質・能力を勘案すれば他より重く重み付けをした方がよいのではないかと。
- ・総合評価の考え方を受検者に分かりやすく示す方法を検討すべきではないかと。

	文字数	問いたい資質・能力	予想正答率	重み付けの有無
問1	40字程度※	②テキストの全体を把握、精査・ 解釈して解答する問題	やや高い	なし
問2	20字程度※			
問3	80～120 字程度※	③テキストの精査・解釈に基づく 考えを解答する問題	やや低い	重み付けは、例えば1.5倍程 度とすることが考えられる か。

※今回の試行調査では、50字、25字、80～120字とした。

○ 試行調査の結果を基にシミュレーションを行ってみると、次のとおり。

段階の考え方	問1	問2	問3
①正答の条件を全て満たしている	43.7%	73.5%	0.7%
②形式的な条件の一部を満たし、かつ、内容的な条件を全て満たしている	-	0.0%	0.1%
③形式的な条件全て満たしておらず、かつ、内容的な条件を全て満たしている	2.2%	0.0%	27.1%
④内容的な条件の半数以上を満たしている（形式的な条件を満たしているかは問わない） （内容的な条件が二つの場合は一つ、五つの場合は三つ）	33.9%		
⑤内容的な条件の半数未満しか満たしていない（形式的な条件を満たしているかは問わない）	14.8%	26.4%	60.3%
⑥形式的な条件の全て又は一部を満たしているが、内容的な条件を一つも満たしていない ⑦正当の条件を一つも満たしていない	5.4%		11.8%

#### 4段階（2パターン）

段階	問1	問2	問3
a ①	43.7%	73.5%	0.7%
b ②	2.2%	0.0%	0.1%
c ③④	33.9%	0.0%	27.1%
d ⑤⑥⑦	20.2%	26.4%	72.1%

段階	問1	問2	問3
a ①	43.7%	73.5%	0.7%
b ②③④	36.1%	0.0%	27.2%
c ⑤	14.8%	-	60.3%
d ⑥⑦	5.4%	26.4%	11.8%

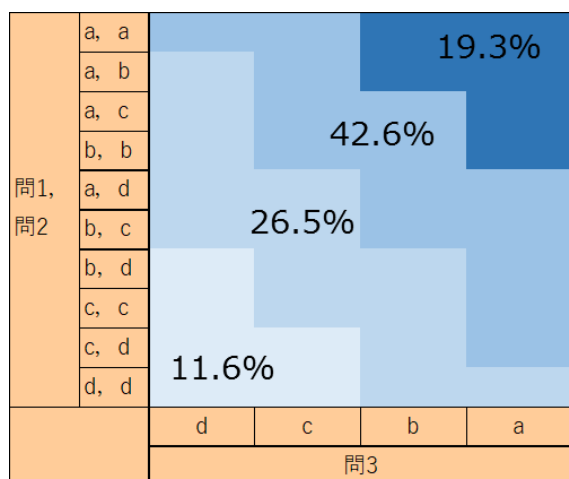
#### 3段階（2パターン）

段階	問1	問2	問3
a ①	43.7%	73.5%	0.7%
b ②③④	36.1%	0.0%	27.2%
c ⑤⑥⑦	20.2%	26.4%	72.1%

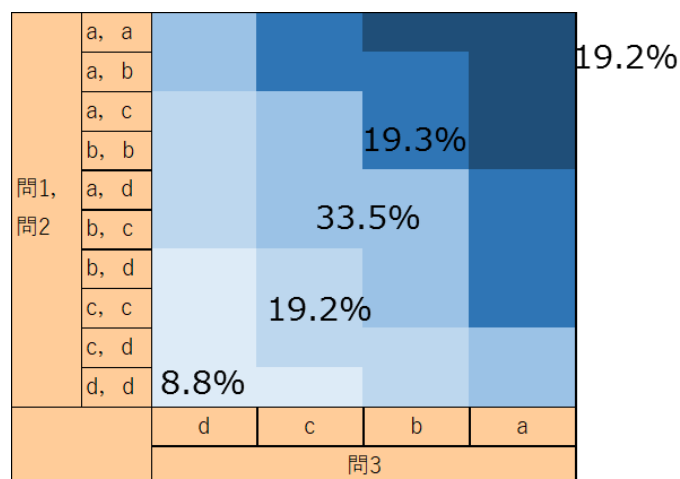
段階	問1	問2	問3
a ①	43.7%	73.5%	0.7%
b ②③④⑤	51.0%	0.0%	87.5%
c ⑥⑦	5.4%	26.4%	11.8%

○ 大学での活用のしやすさを考慮し、小問ごとの段階だけではなく、総合評価を段階で示すことについてもシミュレーションを行った。ここでは、4段階の左のパターンを基に、問3の正答率を3割と仮定しつつ1.5倍の重み付けをしてシミュレーションを行った。

総合評価 4 段階



総合評価 5 段階



### 3. マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析・検討

#### 【分析・検討方針】

- 実施方針において、設問、領域、分野ごとの成績や、全受検者の中での当該受検者の成績を表す段階別表示など、現行の大学入試センター試験よりも詳細な情報を大学に提供するとされたことを踏まえ、試行調査の結果を活用して、①素点に基づいたカテゴリ別（設問、領域、分野等）成績の表示、②分布情報を利用した成績の表示、③分布情報を利用した成績の表示（②に加え、科目の受検者間の学力差の調整を行う）を中心に検討し、それぞれについてシミュレーションを行い、大学及び高校関係者の意見を聴取しながら、科目別WGの議論を踏まえつつ論点の再整理を行う（なお、検討に当たっては、受検者が少数となる科目や追・再試験も考慮）。

#### 【分析・検討結果の概要】

- 上記②の考え方にに基づき、正規化得点等を活用した9段階表示についてシミュレーションを行った。なお、段階別表示の扱いについては、素点表示が社会的に浸透している現状を踏まえつつ、当面は素点と併記し各大学の判断による活用に資するようしていくことが適当か。

現行の大学入試センター試験を前提としたイメージ例

教科	科目	得点	段階
国語	国語	145	7
地歴公民	日本史B	74	6
	倫理, 政治経済	74	6
数学①	数学I・数学A	73	6
数学②	数学II・数学B	68	6
理科①	化学基礎	30	5
	生物基礎	44	6
理科②			
外国語	英語	143	6
	リスニング	33	6

教科	科目	得点	段階
国語	国語	77	4
地歴公民	地理B	73	6
数学①	数学I・数学A	73	6
数学②	数学II・数学B	93	9
理科①			
理科②	物理	96	9
	化学	88	8
外国語	英語	149	6
	リスニング	19	3

## 4. 実施面の課題検証とその解決に向けた分析・検討

### 【分析・検討方針】

- 実施面についても必要な課題の洗い出しと、当該課題の解決に向けた分析・検討を行う。特に、当てはまる選択肢を全て選択させるなどの新しい出題形式について、正答率等の分析データに加えて、記入あるいは消し跡の判断基準をどのように設定すべきか（読み取り基準の変更によるデータの変化を確認）を検証し、科目別WGにおいて各設問の配点や部分点の在り方を検討する。

### 【分析・検討結果の概要】

- 当てはまる選択肢を全て選択させる問題については、正答率等に基づく出題の妥当性等に関する検証と併せて、マークの読み取り濃度の基準を検証する必要がある（現在はかなり薄いマークも読み取りつつ、より濃度の濃いマークを解答として判断しているが、複数マークを正答として扱う場合、どこまでの濃度を解答として判断すべきか技術的な検証が必要となる）。こうした技術的検証と、正答率等に基づく出題の妥当性や配点の在り方に関する検証を、平成30年度試行調査を通じて引き続き行っていく。

## 5. 2024年度以降を見据えて引き続き行う必要がある分析・検討

### 【分析・検討方針】

- 外部の公的機関とも連携し、記述式問題の採点の省力化に向けた検討等を行う。

### 【分析・検討結果の概要】

- 採点作業の省力化に向け、手書き文字の認識やクラスタリングの技術開発に関し、独立行政法人理化学研究所と共同研究を実施。
- 現行の技術で可能な範囲で、国語の問題における正答の条件に含まれる一部の語句を認識し答案を自動抽出するシステムを、平成30年度試行調査において補足的に試行することを検討中。
- CBT導入に向けては、文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業を受け、「情報科」に関してCBT模擬試験を実施している大阪大学等と連携を図り、大学入試センターが平成30年1月にモニター調査で実施したCBTの結果の分析も行いつつ、検討中。